

目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践 ～ユネスコ世界ジオパークとともに～

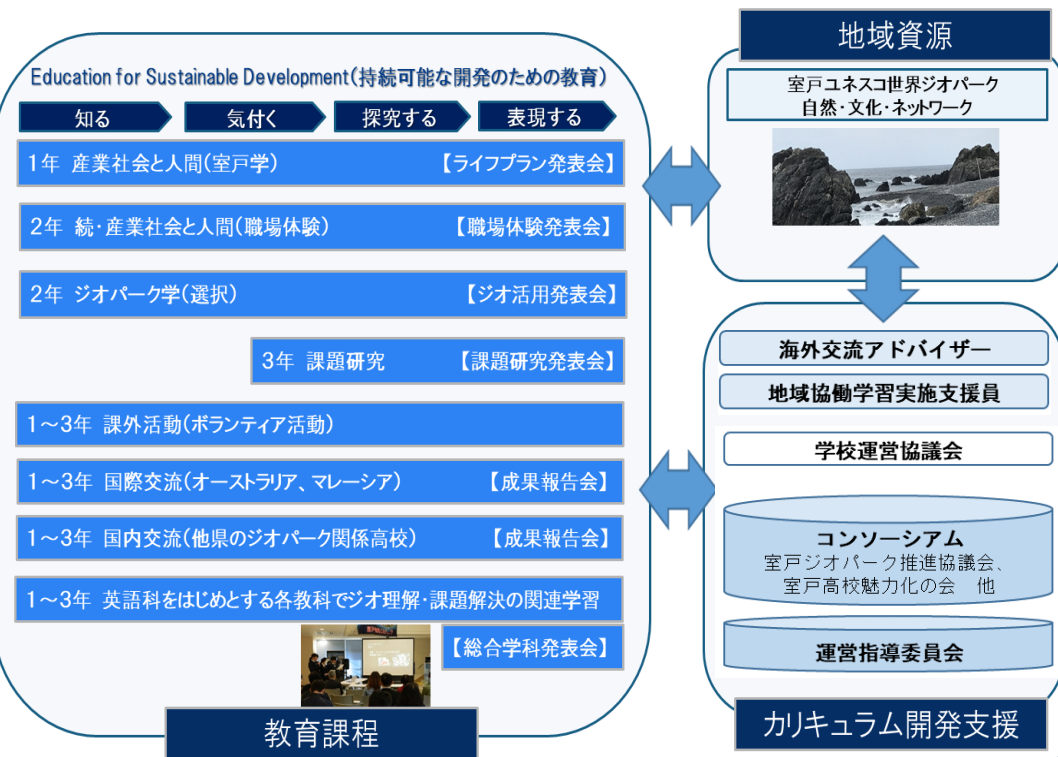
研究開発の背景

本校が位置する高知県室戸市においては少子高齢化が急速に進み、将来、地域を支える人材育成が喫緊の課題である。室戸地域が、室戸ユネスコ世界ジオパークに認定されていることを生かし、その資源を有効活用し、国内外の様々な地域と関わる機会を提供することによって、グローバルな視野で物事を捉え、地域の課題を解決できる資質を持つ人材を育成する。

実施体制

キャリア教育に関わる特色ある科目の取組を継続させ、人とのつながりの深化、地域貢献、地域課題解決学習を行うため、コンソーシアムの見直しを図るとともに海外交流アドバイザー等の配置や他組織との連携によってカリキュラム開発に取り組む体制を再構築した。また、室戸ユネスコ世界ジオパークの素材、人的ネットワークを活用し、国内外の高校との交流を生徒が積極的に活動する機会を設けた。

カリキュラムマネジメント 世界的な視野を持って地域で活躍できる人材育成



令和2年度の目標

- ESD体制のプログラム開発及び実践…地域との協働による探究的な学びを実現する特色ある科目学習を充実させる。
- 地域貢献活動…生徒が室戸市民と協働で地域貢献に精力的に取り組み、室戸地域特有の課題を発見し、解決方法を探究する。
- 海外交流活動…室戸ジオパーク推進協議会及び室戸市と連携して生徒と学校間の交流を推進するとともに地域振興につなげる。
- 国内外のユネスコ世界ジオパークとの交流…ジオパークを活用した地域貢献活動を行っている複数の高校と交流を持つ

取組状況

- 「体験する」「気付く」「探究する」「発表する」「振り返る」という一連のプロセスを重視した内容への見直し。
- コロナのため参加機会が激減したが、開催されたイベントには希望者を募って参加した。
- 直接現地を訪れる交流を避け、オンラインツールを活用した交流の実施。(マレーシア・ランカウイ、オーストラリア・ポートリンカーン、ロ加高校、糸魚川白嶺高校、池田高校)

成果と課題

海外交流を経験した生徒を中心に、英語の学力向上、地元に関する関心・意欲の高まり、地域貢献活動等、自ら行動しようとする姿がみられ、周りの生徒への波及効果が見られ始めた。

今後、教科横断的な視点も併せて、探究的な活動につなげることができるよう、探究という視点に立ち、3年間を見通した学習内容となるよう、改めてカリキュラムの見直しを行っていきたい。